

さらに交流深めよう



学生らと談笑する山口首席領事(中央)

学生たちは7月24日から、ニューヨーク、ワシントンDC、オクラホマ州ノーマンに1週間ずつ滞在。二国間を超えた未来へ伝統への回帰と私たちの挑戦」をテーマに、サブカルチャー、国際開発、グローバル企業、科学の発展と社会での受け止められ方など7つの分科会で議論を続けてきた。グラウンドゼロやオクラホマ連邦政府ビルなどテロ事件の跡や、連邦政府施設の見学、文化プログラムを通して、交流を深めてきた。

SFでは、20世紀初頭

に移民局が置かれていたエンゼルアイランドを訪れるほか、企業を見学する。最終日の18日に全体会議を開き総括する。アメリカ側を代表してあいさつしたシーハン・スカホロさんは「3週間を共にした今、学んだことを共有し、後輩のためにプログラムをさらに改善していくべきだ。SFでグランドファイナルを迎えた」と話した。

レセプションを主催した山口一義首席領事は「国際関係に携わるならば、物事を批判的に見る姿勢が大切。強い日米関係に貢献できる人材にならしてほしい」と激励した。

今年、58回目の日米学生会議は、1934年、満州事変で悪化した日米関係を憂慮する日本人学生らが創設。宮沢喜一前首相や、航空大手エアバス・ジャパンのグレン・フクシマ社長ら、多様な

日米学生会議 参加者がSF到着

日本とアメリカの学生が1カ月の共同生活と議論、研修を通して相互理解を深める「日米学生会議」の参加者72人が14日、最終訪問地のサンフランシスコに到着し、SF総領事館で歓迎レセプションが開かれた。参加者らは積極的な交流を続けた。



ユニオンスクエアで「よきこい」を披露する日米の大学生70人

分野で両国関係に貢献する人材を輩出している。レセプションには、ベイ

エリア在住の学生会議OBらも招かれた。

ユニオンスクエアで 元気に「よきこい」

日程2日目の15日、ユニオンスクエアで学生たちがそろいの赤いTシャツ姿で「よきこい」を披露した。SFの空に威勢のいい掛け声に、通り掛かった人も楽しそうに見入り、中には飛び入り参加する若者もいた。

パフォーマンスを思い立ったのは、早稲田大の「よきこい」サークルに所属する大原学さん。参加者のきずなを強めようと呼び掛け、会議の合間を縫って練習をした。

パフォーマンスを終え、大原さんは汗をぬぐいながら「ほんのちよとしか練習しなかったのですが、予想外にうまくできました。参加者の思い出になったらうれしいです」と満足そうだった。